


2021	名前	選出理由	事例内容(概要)	事例(一番伝えたいこと)	推薦者
7月	N.O	<p>I.「民医連のめざす看護の基本となるもの」の評価視点である以下の3点が特にすばらしくらBESTOfキラリに認定しました。</p> <p>①患者の見方・捉え方：患者を個人と尊重され生きる権利が保障される存在であるにとらえた</p> <p>②患者の立場に立つ：患者の状況や訴え等事実をありのままにとらえ、想像力を働かせて理解し、共感した</p> <p>③患者の要求から出発する：患者の潜在的、顕在的な要求を引き出し、受け止め、その実現に向けて取り組んだ</p> <p><b>II患者の話から好きなことをくみ取り、入院生活にもその人らしい日常を取り入れ、患者や家族を笑顔に出来た事例</b></p>	<p>56歳女性、乳癌、多発骨転移、後腹膜転移、イレウス 麻薬使用し嘔吐や幻覚あり</p> <p>カラーしたロングヘアで、メイクも持参しておりお洒落が好きな印象だった患者から、かつて美容師を目指していたという話を聞く。嘔吐が続き髪が汚れてしまうこともあったが、汚れないよう編み込みだりチームを越えてスタッフでヘアアレンジを行った。調子がいいときは自分でメイクを行い写真を撮り、家族や友人にメッセージを送っている姿があった。また、「家に帰りたい」という気持ちはあるが家族に迷惑を掛けるのではと不安と葛藤していたが、最期は自宅には帰ることが出来ずに病院で亡くなった。</p>	<p>患者の好きなことを取り入れた看護ケアで、苦痛が少し緩和されたり、一瞬でも辛さを忘れ笑顔になれたこと。また面会制限がある中で、調子が良い日の顔の写真を送ることができたことは、本人も家族も入院前のお洒落な妻、母の印象を持ったまま最期を迎えられたのではないかと。「帰りたい」の気持ちを確認できて退院準備をしても、間に合わなかったことが悔やまれたとのことだったが、ターミナル期の患者には逃してはいけないタイミングがある事を痛感し、これからは本人や家族の意向を取り入れ、最期を迎えられる関わりをしたいと強く感じる事が出来た。</p> <p><b>テーマ：本人と家族の意向に寄り添う</b></p>	<p>看護部 2021.07.31 梁瀬</p>
8月	M.F	<p>I.「民医連のめざす看護の基本となるもの」の評価視点である以下の3点が特にすばらしくらBESTOfキラリに認定しました。</p> <p>①患者の見方・捉え方：患者を個人と尊重され生きる権利が保障される存在であるにとらえた</p> <p>②患者の要求から出発する：患者の潜在的、顕在的な要求を引き出し、受け止め、その実現に向けて取り組んだ</p> <p>③患者とともにたたかう：患者の生命力を高め、健康回復のために課題を共有し克服できるよう支援する</p> <p><b>II.患者の本音を聞き出した後、温まりに行きましょうと視点を変えた声掛けにより、患者の気持ちに変化し、行動変容出来た事例</b></p>	<p>Yさん女性、腰椎圧迫骨折で入院。保存療法。ベッドサイドの生活は自立できるくらいに回復したが、認知機能低下があり、入浴を拒否していた。</p> <p>機械浴に誘ったが、「入らない、入ったら絶対に風邪をひく」「入らなくもいい」と何度誘っても拒否が強かった。</p> <p>「(以前に入って)もう嫌だと思った」というので、どこが嫌だったのか、どんなお風呂なら入れるか聞いたところ「ミスト浴が寒かった」「20分は湯船につかりたい」との発言があり、ゆっくり長く浸かりたい。短く入って風邪をひくのが怖いという患者の思いを知った。その後も誘えば、断られる状況だったが、少し暖かくなり、入浴者の人数が少ない日があり、スタッフ・CWとともに誘い方を考え、【お風呂の準備ができていますので、温まりに行きましょう】と誘うと、その日は拒否なく入浴でき一か月ぶりに入浴することができた。</p>	<p>・患者さんが、何をしたい、したくない・なぜそれをしたい、したくないと考えているのかを理解するのはとても大切だと学んだ</p> <p>・処置や介助を断り続ける方でも、「あの方は入らない人だから」と決めつけず、本人にとって良い方法をとってもらえるよう、働きかけることをあきらめない</p> <p><b>テーマ：決めつけない看護とケア</b></p>	<p>看護部 2021.08.31 吹田</p>
9月	Y.S	<p>I.「民医連のめざす看護の基本となるもの」の評価視点である以下の3点が特にすばらしくらBESTOfキラリに認定しました。</p> <p>①看護の視点・優点：患者の状況や訴えなど事実をありのままに捉え、想像力を働かせて理解し、共感する</p> <p>②患者の見方・捉え方：医療は患者と医療者が対等・平等の関係で協力し合うことで成り立つと認識したか</p> <p>③看護の視点・優点:患者の生命力を高め、健康回復の為に課題を共有し克服できるよう支援する</p> <p><b>II患者の状況・訴えを迅速に把握し、患者の不安な時間を共に過ごし、気持ちの良いケアを提供することができた。また気持ちの良いケアからもたらされた、患者の感謝の言葉によって医療者のグリーフケアに繋がった事例。</b></p>	<p>64歳男性 アルコール性肝硬変で腹水貯留により腹水穿刺を行なうために入院していた。</p> <p>眠剤を内服していたが不眠が続いており、ラウンドにいくと起きていたことがあった。時間がある時には、本人の話を聞いたり、体をさすったりして対応した。腰痛の訴えがあった時には、温タオルで案電法を実施した。翌朝には「色々してくれてありがとう」と声をかけてくれた。</p>	<p>業務に追われてしまうと時間を確保するのは大変であるが、夜勤中の少しの時間を使って、患者の話に傾聴する、タッチングをする、などのケアは患者にとって心地よいと感じることを改めて知ることができた。</p> <p><b>テーマ：気持ちの良いケアがもたらす効果</b></p>	<p>看護部 2021.09.30 小野寺</p>



2021	名前	選出理由	事例内容(概要)	事例(一番伝えたいこと)	推薦者
10月 	E・T	<p>I.「民医連のめざす看護の基本となるもの」の評価視点である以下の3点が特にすばらしくBESTOfキラリに認定しました。</p> <p>①患者の見方・捉え方：医療は患者と医療者が対等・平等の関係で協力し合うことで成り立つと認識したか</p> <p>②看護の視点・優点：患者の状況や訴えなど事実をありのままに捉え、想像力を働かせて理解し、共感する</p> <p>③看護の視点・優点：患者の生命力を高め、健康回復の為に課題を共有し克服できるよう支援する</p> <p><b>II検査を受ける患者の不安な様子をくみ取り、タッチングしながら声掛けを行うことで、不安を取り除き、安心して検査を受けることができた。また手を用いるケアの効果を実感できた事例。</b></p>	<p>Iさん 女性 脂質異常症で健愛クリニックに通院している方。当院には、ピロリ菌除菌後の胃カメラを、2年毎に依頼検査に来ている。</p> <p>胃カメラの予定で来院。検査前から表情が硬く、緊張していた。開始直後、脈拍130回/分となり、むせ込んで呼吸を止めてしまい、SPO290%前後に低下した。</p> <p>Iさんの右手に自分の手を添えて、背中をさすりながらゆっくり声をかけ、深呼吸を促した。その後、呼吸も穏やかになり、SPO2 98%~100%。脈拍70~80回/分に安定し、終了後に、「背中をさすってもらって楽になりました」と発言あり。</p>	<p>看護の基本である、「手当て」の意味が理解でき、効果を実感した。</p> <p><b>テーマ：不安な気持ちに寄り添い、手を用いたケアの効果</b></p>	<p>看護部 2021.10.31 加藤</p>
11月 	Y・Y	<p>I.「民医連のめざす看護の基本となるもの」の評価視点である以下の3点が特にすばらしくBESTOfキラリに認定しました</p> <p>①看護の見方・とらえ方：人間は社会のありようや 周囲の人たちの働きかけの影響を受けてかわることができるのとらえたか</p> <p>②看護の視点・優点：患者の潜在的・顕在的な要求を引き出し、受け止め、その実現に向けてとりくむ</p> <p>③患者の要求実現を妨げる要因を明らかにし、それを取り除くためにとりくむ <b>IIコロナで面会制限のある中、娘から母への思いをくみ取りありのままの母親の姿をメールを通して見せることで、娘の気持ちに寄り添えた事例</b></p>	<p>90代 女性 検査にて肝腫瘍あり。積極的な治療はせず、本人の希望で告知せず。お看取りした。 病状説明後、娘が「母に会えるのは最後かもしれないですね」と話された。娘さんが帰ったあと本人の承諾をえて昼食を食べているところを携帯電話で写真を取り娘さんにメールで添付したら、娘さんから感謝のメールが返信されてきた</p>	<p>コロナで面会に来れない家族に患者さんの現状を見てもらおうと思った</p> <p><b>テーマ：家族の訴えをありのままにとらえ、理解し共感できる</b></p>	<p>看護部 2021.11.30 眞柄</p>
12月 	H・S	<p>I.「民医連のめざす看護の基本となるもの」の評価視点である以下の3点が特にすばらしくBESTOfキラリに認定しました。</p> <p>①患者の見方・捉え方：医療は患者と医療者が対等・平等の関係で協力し合うことで成り立つと認識したか</p> <p>②看護の視点・優点：患者の状況や訴えなど事実をありのままに捉え、想像力を働かせて理解し、共感する</p> <p>③看護の視点・優点：患者の生命力を高め、健康回復の為に課題を共有し克服できるよう支援する</p> <p><b>II患者の思いだけではなく、患者家族の思いをくみ取り寄り添うことで、家族の気持ちを整理をすることにもつながった事例</b></p>	<p>腎不全末期。後方探しのために、4階から転棟。徐々に意識レベルの低下があり、3階で看取った。亡くなる直前に面会にきた嫁、孫と患者の洗髪を一緒に行うことができ最期の思い出を一緒に作る事ができた。本来なら悲しい場面だが、嫁や孫の笑顔が見れなくなった時は、「髪洗ってあげられてよかった」との発言あり。</p>	<p>面会が制限される中で、人生の最期の場面に本人、家族と一緒に寄り添うことができるか考え、支援できたことで、本人だけでなく家族の気持ちも整理できたことは、グリーフケアにもつながっていると感じた。</p> <p><b>テーマ：本人と家族、その気持ちに寄り添う時間を共有することの大切さ</b></p>	<p>看護部 2021.12.29 飯村</p>

2021	名前	選出理由	事例内容(概要)	事例(一番伝えたいこと)	表彰者
1月	M・S	<p>I.「民医連のめざす看護の基本となるもの」の評価視点である以下の3点が特にすばらしくBESTOfキラリに認定しました</p> <p>①患者の見方・捉え方：医療は患者と医療者が対等・平等の関係で協力し合うことで成り立つと認識したか</p> <p>②看護の視点・優点：患者の潜在的・顕在的な要求を引き出し、受け止め、その実現に向けてとりくむ</p> <p>③看護の視点・優点：組織内外の様々な職種や施設、機関、団体、個人と連携し、患者を支援している。</p> <p><b>II、患者の要求から出発し、組織内外と連携することで患者本人が医師に直接思いを伝えることができ、要求が実現できた事例</b></p>	<p>85歳 男性 パーキンソン病フォローのため、土曜日の神経内科外来に長年受診されている。今後、デイサービスを利用のため、曜日変更の要望があった。</p> <p>要望をかなえるために、外来看護師とMSWが連携し情報を共有し、返答を統一した。</p> <p>連携することで、患者本人が直接外来主治医に要望を伝えることが出来た。</p>	<p>患者の訴えに対し、他部署との情報共有、統一、連携することが大切と感じた。</p> <p><b>テーマ：患者の思いに寄り添い理解し、実現に向けて取り組むことの大切さ</b></p>	<p>看護部 2022.01.31 園田</p>
2月	A・K	<p>I.「民医連のめざす看護の基本となるもの」の評価視点である以下の3点が特にすばらしくBESTOfキラリに認定しました</p> <p>①患者の見方・捉え方：患者を個人として尊重され生きる権利が保障される存在であると捉えた。</p> <p>②看護の視点・優点：患者の病態・生活史・労働史・環境を重ねて理解し、共感する</p> <p>③看護の視点・優点：患者の潜在的・顕在的な要求を引き出し、受け止め、その実現に向けてとりくむ</p> <p><b>II、患者の思いから在宅での生活に目を向け、家族全体のたケアに取り組むことができた事例</b></p>	<p>80歳 男性 他院健診で貧血 (Hb5.3) が見つかり精査のため入院。同居の妻を自宅で介護していたこともあり、入院拒否となったため、同居妻をレスパイト入院を検討。別棟予定であったが、夫の重症貧血ながらも「妻を介護してあげたい」という思いをくみ取り、退院まで同室での治療を行うことができた。</p>	<p>一人の患者ではなく、1人の人間として、病棟全体で見守ることができた事例</p> <p><b>テーマ：患者の気持ちに寄り添い、患者家族のQOL向上に取り組むことの大切さ</b></p>	<p>看護部 2022.02.28 菅原</p>
3月	A・I	<p>I.「民医連のめざす看護の基本となるもの」の評価視点である以下の3点が特にすばらしくBESTOfキラリに認定しました</p> <p>①「患者の立場に立つ」という評価視点では、飯村さんは患者の状況や訴えをありのままに捉え、介護者との生活に対して想像力を働かせ、理解・共感して、退院支援を進めていました。</p> <p>②「患者の要求から出発する」という評価視点では、患者の潜在的・顕在的な要求を複数回にわたり引き出し、患者と介護者の意見を受け止め、その実現に向けて取り組んでいました。</p> <p><b>II、丁寧に患者・介護者の意思を確認し、お互いに納得し合って施設に行くことを決断できた事例。</b></p>	<p>脱水・転倒で何度も入退院を繰り返している患者。孫が介護を続けてきたが、介護疲れからか不眠を訴え、精神科に通うようになっていた。</p> <p>退院支援に際し、面会禁止の中、どうやったら本人と孫の両者が納得のいく退院支援ができるかを考え、ケアマネージャーやPT、施設仲介業者を巻き込みながら、何度も短い面会や電話連絡を繰り返して、最終的には施設入所へ繋いだ。その間、孫が「本人の意思を確認したい」と何度も言っていたことが印象に残っている。</p> <p>本人の体調やADL・認知面を孫に理解してもらって、孫の生活を守ることが本人の生活を守ることにすると理解に繋げる努力をした。</p>	<p>意思決定の場面はいつくるかわからない。判断能力がある時に確認を繰り返すことが大切。本人の意思だけではなく、支える介護者の生活のことも含めて話し合いを重ね、お互いが少しでも安心できる結果になるよう協力していくことが重要である。</p> <p><b>テーマ：本人の意思を尊重し、介護者も安心できる意思決定支援の重要さ</b></p>	<p>看護部 2022.03.31 伊藤</p>

